

# トップ・アスリート就職支援ナビゲーション「アスナビ」連携会議

ロンドン・オリンピックの熱戦はまだ記憶に新しいが、アスリートたちは、既に次回開催地ソチ、リオに向けて始動している。しかし、なかには就職先が決まらず将来に不安を抱えているアスリートも多い。そんなアスリートの“雇用”を支援する「アスナビ」の連携会議が行われ、採用企業からはアスリート採用のメリットなど事例が報告された。

○10月30日開催

## グローバルに社員の一体感を醸成

会議の冒頭、市原則之JOC専務理事が挨拶し「銀座でのロンドン・オリンピック凱旋パレードには予想をはるかに上回る約50万人が集まり、あらためてアスリートのポテンシャルを感じた。

この活力は企業でもきっと活用できる」と語った。続いて行われたパネル・ディスカッションでは、アスリート採用企業から、待遇やメリットなどが報告された。どの企業も会社の一体感の醸成

などに効果があるとの報告があった。また、競技引退後も即戦力として会社での活躍に期待していた。

最後にアスリート3名から、採用に向けての自己PRが行われた。

### 採用企業の活動とメリット

- ・グローバル企業にとっては、日本国内のみならず、グローバル拠点を含めた社員の一体感の醸成に役立つ。
- ・競技を通じた諦めない心、世界へ挑戦し続ける姿勢が社風づくりに影響。
- ・所属企業としてメディアへの露出により高い広告効果を生む。

### ■アスリート自己PR



外村 哲也 選手  
(体操・トランポリン)

オーストラリア留学や国際大会も数多く経験してきました。世界で戦う向上心を社員の方々と共有したいと思っています。



西 伸幸 選手  
(スキー・フリースタイル)

2014年のソチで活躍することで、支援企業様の名前を大きく露出させることが私に与えられた使命だと思っています。



酒井 志穂 選手  
(水泳・競泳)

ロンドン出場を逃した悔しさをバネに、社会人としての水泳人生を1日も無駄にすることなく、会社へも貢献したいです。

## アスナビ採用の上田選手 ロンドン・オリンピックで銅メダル！

講演：平井伯昌 日本代表ヘッドコーチ



### アスナビが選手に及ぼす影響について

アスリートは、トレーニングや大会で、就職活動が満足にできないという現状があり、アスナビが就職に大きな役割を果たしている。

上田は近年伸び悩んでいたが、それが、キッカーマンに就職してから日本記録を10回ほど出し、まさに社会人と

して目覚めたという印象を受けている。

実は就職する間際、故障が続き入社と同時に出場した浜松市での代表選考会では、とても不安な状態だった。結果自己ベストが出たが、彼女は、地元の子供たちの方の応援が励みになったと今まで見たこともないような笑顔で語った。また、ロンドン・オリンピックでメダルを取って帰国した後も、これから会社に報告に行くと、す

ごくうれしそうだった。就職したことで、安心して競技に取り組み、また社会人としての責任感が結果に結び付いたと思っている。



キッカーマン  
上田春佳選手

味の素ナショナルトレーニングセンターでの練習風景

アスナビの  
申し込み・お問い合わせ  
JOCキャリアアカデミー

■E-mail  
career@joc.or.jp

■TEL  
03-5963-0355

※受付時間は月曜日～  
金曜日の10時～18時  
まで

## トップ・アスリートと企業がwin-winの関係に！

競技会では関係者からも参加企業へ向けて雇用について協力が呼び掛けられた。荒木田裕子JOC理事・スポーツ将来構想プロジェクトチームは「アスナビは2010年の10月に経済同友会の協力を得て第1回が開催された。これまで11名のアスリートが企業に採用され、安心して競技に打ち込んでいる。採用企業からは、さまざまなメリットがあったとの報告を受け、お互いがwin-winの関係にある。今後もぜひ、アスリートの採用について検討

いただきたい」と語った。

福井烈JOC理事・JOCゴールドプラン委員会委員長は「今、あらためてスポーツの持っている力の大きさを実感している。この盛り上がりソチ、リオ、そして、東京オリンピック・パラリンピック招致につなげていきたい。これが決まれば、日本は劇的に変わる。それを支えるのが、今のトップ・アスリートたちである。ぜひ、支援をお願いしたい」と熱く語った。